

2018年8月実績概要(メモ)

(2018. 9. 20)

前月比では増産品目が目立つも前年に対しては稼働率要因、定修規模差から減産品目が多数。

1. 生産動向

イ) エチレン 517, 200トン

前月比 + 4.3% (+21,100トン)  
前年同月比 ▲ 7.7% (▲43,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	+ 1.7%	▲ 7.4%
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 2.6%	▲ 0.3%
生産増減率	+ 4.3%	▲ 7.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月92.9%→ 当月95.2% ← 前年同月95.5%  
定修プラント：前月3社3プラント→ 当月1社1プラント ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PP、塩ビモノマー、EG、BR、キシレンなどの11品目がプラス。PS、SM、EOなどの6品目は定修規模差等からマイナスとなった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因からPP、SM、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EG、ベンゼン、キシレンなどの13品目がマイナス。PS、塩ビモノマーなどの4品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LDは稼働率要因から、HD、PPは定修規模の差等からプラスとなった。PSは主として稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因からLD、HD、PPでマイナス。PSのみがプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、8月の夏季休暇に伴うユーザー側の営業日数の減少もあり、4樹脂揃って例月と比べてマイナス幅が大きめとなった。

前年比では、LDはフィルム分野他、PPは射出成形分野やフィルム分野に加えて繊維関係での出荷が減少しマイナスとなった。PSは包装分野、FS分野の出荷が当月は伸びプラスとなった。

ハ) 輸出

輸出は、ポリオレフィンでは数量的に低位な状況が続いており、特にLD、HDでは近年では最低レベルの輸出量となっている。前月比はLD、PP、PSでプラス、HDはマイナスとなった。

前年比ではポリオレフィン3樹脂でマイナスとなり、PSのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSの4樹脂で増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDで上昇、PP、PSは低下した。在庫水準としては、LDはほぼ適正、HD、PSはやや高め、PPはタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LD	+27,200	3.1	3.2
HD	+18,800	3.1	3.4
PP	+30,700	2.9	2.7
PS	+2,400	1.7	1.6

以上